**『災害文化研究』執筆要領**

1.　原稿の書式

1）原稿執筆にあたっては原則としてパソコンを使用すること。印字する用紙としてA 4 版白紙を縦に用い，上下に各30mm，左右に各 25mm 程度の余白を設け，指定の文字サイズで横書き47字×40行（本文は22字×40行, 2段組）となるように印字すること（末尾の見本参照）。

2) 原稿の１ページ目に, 題目・著者名・要旨（10行程度）・キーワードを１段組みで記載し, 本文は２段組みとする。所属は、本文終了部分（注の前）に書くこと。各ページ下部中央に、必ず文献までの通しページ番号をつける。キーワードは，論説，研究ノートにつけることとし，本文の内容をよく表すもの5 個以下とする。

［例］キーワード：自然災害，防災教育，地域づくり，伝承，岩手県，

3）論説については，英文の題目ならびに500語程度の英文要旨と 5 個以下の英文のキーワードをつける。英文のキーワードは，１ページ目に記載したキーワードと対応するものであること。本文最終ページの後, 次のページに独立して, 英語表記の表題・氏名・キーワード・英文要旨（本文が英語の場合は日本語）を記載したページを添付する。

4) 研究ノート，報告，資料については英文要旨と英文のキーワードは必須ではないが，英

文の題目と著者名ならびに英文表記による連絡先をつけること。

5) 英文要旨は専門家の校閲を受けたものとすること。希望があれば編集委員会が専門の翻訳業者を紹介するが，費用は著者の負担とする。

6) 各章の表題／見出しは, 原則として３レベルとし、アラビア数字を用いて左詰めで記載する。第一レベルの表題と本文との間に１行分のスペースをとる。第二レベル以下は, 2.1 / 2.2… / 2.1.1 / 2.1.2 / 2.2.1 … と記載し、本文との間にスペースはとらない。

7）人名，地名および術語などの特別なもの以外は常用漢字・新かなづかいを使用する。外国の人名や地名については原則としてカタカナ表記とする。接続詞や副詞は，文を直接引用するなどの場合を除き，かな書きを原則とする。表記法にゆれがある語句の表記については，原稿中で用いる表記の統一をはかること。

8）年号は原則として西暦を使用し，元号が必要な場合は（　）に入れて記す。

9）動植物等の学名はイタリック体で表記し，なるべく和名を併記する。

10）数量の表では，「1 万2000」または「12,000」のいずれかの方式を採用し，「1 万2,000」のような両方式の混用はしない。大きな数量の場合には，概数で差し支えなければ「万「億」などを用いる。

11）数式は2 行分以上取り，文字・数字・記号などの種類および大小や特殊な字体（イタリック，ボールド，ギリシャ文字など）を明瞭に区別できるようにする。

12）書評については，冒頭の見出しとして，対象単行書の編著者名や書名，副題，版型， ページ数（必要ならば図表枚数），出版年， 出版社ならびに本体価格等を示し，本文の末尾に評者名を（　）内に記すこと。

［例］矢守克也・諏訪清二・舩木伸江『夢見る防災教育』，A 5 判，263ページ，2007年，晃洋書房，2,800円（税別）

2 ．注と引用の表記

 1 ) 注をつける場合には，本文中の該当個所の右肩に右片カッコ付きの通し番号（1），2）…） を付して示す。

2 ) 本文中の文献の引用は，注によっておこなうのではなく，以下の例に準拠して著者の姓と発表年を記載する。著者が3 人以上の場合は，筆頭著者の姓に「ほか」（邦文の場合）または et al.（英文の場合）を付す。単行書の場合には該当するページを明示する。

［例］ 沼田（1994, p.212） に よ る と …… と さ れ る （Kelly, 1983；伊藤，1994）。及川・片田（2016）の指摘では….

Young and Owen（1990）は……となる（山本 ほか，1991）。Percy et al.（1982, pp.21-25）に基づく…

3 ) 注および引用文献はそれぞれ分けて，注，文献の順番で本文の後ろにまとめて記載する。注については本文中に付した注番号との対応がわかるように，注記の先頭に右片カッコ付きの通し番号をつける。

4 ) 文献の記載

a ) 邦文は著者名の五十音順に，英文はアルファベット順に並べる。

 b ) 複数の著者であっても，省略せずに全著者名を記載する。ただし，英文文献の場合 には姓以外はイニシャルのみとする。筆頭 著者名が同一の場合には，第 2 著者名（あるいはそれ以降）の五十音順（英文はアルファベット順）に並べ，著者数が少ないものを先にする。

 c ) 同一著者による文献が複数ある場合には公表年の順に並べる。この場合でも著者名 を省略することなく，文献ごとに著者名を記載する。

d ) 同一著者による同一発表年の文献がある場合には，発表年に続けて，引用順に a， b，c，…をつけて区別する。

e ) 日本語等の雑誌名は原則として略記しない。また，英語の雑誌名もむやみに略記しない。

 f ) 英文の雑誌名と単行書名についてはイタリック体とし邦文の単行書名については 『　』内に記載すること。

g ) 巻数はボールド体とする。巻ごとに通しページがつけられている雑誌については号 数を省略し，通しページがない場合には巻数の後に号数を（　）に入れて示す。

h ) 邦訳書を文献表に記載する場合には，邦文単行書に準じた表記に続けて，原書に関 しても英文単行書に準じた表記で可能な限り記載すること。

 ＜雑誌論文の場合＞

 著者名（刊行年）：論文名・雑誌名，巻（号），掲載ページ．

 ［例］

 山崎憲治（2016）：復興の鍵となる災害学習－レジリアントな社会創りに向けて．社会科教育研究，124，pp.1-13.

山崎友子（2011）：津波体験を後世に伝えるために－津波防災文化の形成とカリキュラム化－．教育展望，57（8），pp.31-34.

Tomohiro Tabata, Akio Onishi, Peii Tsai (2019): Earthquake disaster waste management reviews: Prediction, treatment, recycling, and prevention.

*International Journal of Disaster Risk Reduction*, 36, pp. 1-7.

＜書籍の場合＞

 編著者名（刊行年）：『書名あるいは表題』，出版社，総ページ数あるいは引用ページ．

［例］

 髙橋和雄編（2014）：『災害伝承－命を守る地域の知恵－』，古今書院，201p．

初澤敏生（2018）：福島県における被災地の実態と課題．日本社会科教育学会編『社会科教育と災害・防災学習－東日本大震災に社会科はどう向き合うか－』，明石書店，pp.14-22.

Bankoff, G. （2003）: *Cultures of disaster: society and natural hazard in the Philippines.* Routledge Curzon, London and New York, 256p.

Ludin, R. S. and Smits, G. J. （2007）：Folklore and earthquakes: Native American oral traditions from Cascadia compared with written traditions from Japan. In Piccardi, L. and Masse, W. B. eds. *Myth and Geology.* Geological Society, London, 67-94.

 i ) インターネット上におけるウエブページなどを引用する場合には，下記の要領で記載 する。なお，タイトルやURLは，引用部分が掲載されているページのものを原則とするが，引用が同一サイト内の複数ページにまたがる場合には，それらへのリンクがある上位階層のページで代表させる。著者名（作成年）：タイトル。URL（閲覧年月日）

［例］

文部科学省（2019）：「生きる力」をはぐくむ学校での安全教育．

http://www.mext.go.jp/component/a\_menu/education/detail/\_\_icsFiles/afieldfile/2019/05/15/1416681\_01.pdf（2019年 7月31日）

3 ．図表，写真

1 ) 図表や写真は，できる限り工夫して要約し，必要十分なものに限定すること。単なる 生データの羅列や過度に情報を盛り込んだ図表は好ましくない。

2 ) 図と写真については，そのまま印刷可能な鮮明なものとすること。カラーの図表や写真の掲載はおこなうことができるが，追加費用 については著者の負担とする。

 3 ) 図表や写真の番号は，図1 ，表1および写真 1 のように表記する。本文中に挿入希 望の図表や写真の番号を朱記すること。

4) 図表や写真の刷り上がりの大きさは，タイトル，説明文も含めて最大14cm×19cm（1 ページ）である。また，誌上での割付は，原則として幅 7cmまたは14cmのいずれかである。図表の折込みはおこなわない。

 5 ）図の作成にあたっては，印刷完成時の見え方を考慮し，文字サイズ，線幅ならびにパターン等について細心の注意を払うこと。手書きの図などをイメージスキャナによって取り込む場合には，濃淡やかすれの発生などに留意し，不鮮明にならないよう十分な解像度をもたせること。不鮮明な図に関しては，業者に依頼して書き直し，その費用を著者に請求する。

 6 ) 図の下には，図番号，タイトルならびに説明文等をつける。写真については，図に準じて写真番号，タイトルならびに説明文等をつける。

7 ) 表は原稿中に組み込むことはしないで，必ず図などとともに別紙に記載し，表の上に表番号とタイトルをつける。表の注記等は表の下に記載する。なお，表中における罫線の使用は必要最小限にとどめること。

4 ．その他

原稿の執筆に関する問い合わせ・送付は編集委員会に電子メールで行うこと。

問合せ先：災害文化研究会事務局（『災害文化研究』編集委員会）

email： saigaibunkaiwate@gmail.com

＜原稿体裁見本～１ページ目＞　　　　　　　　　　＜原稿体裁見本～２ページ目以降＞

【B4】

22字×40行

【B3】

22字×40行

【A】

1行47字

【B2】

1行

22 字

【B1】

1行

22字

【 A 】題目から要旨の部分：１段組み。１行47文字。

＜サンプル＞

題目・副題

（日本語:明朝体18ポイント, 英語: Times New Roman 18ポイント、センタリングする）

［１行（日本語：10.5 ポイント, 英語：12ポイント相当）あける］

著者名

（日本語／英語：１４ポイント、英語の場合姓は大文字、センタリングする）

［１行（日本語：10.5 ポイント, 英語：12ポイント相当）あける］

要旨

（日本語：明朝体9ポイント、英語：10ポイント。表題の「要旨」はセンタリングする）

［１行（日本語：10.5 ポイント, 英語：12ポイント相当）あける］

要旨本文（左詰めとする。日本語：明朝体9ポイント、英語：10ポイント。）

［２行（日本語：10.5 ポイント, 英語：12ポイント相当）あける］

【 B1 】【 B2 】【 B3 】【 B4 】本文、注、文献等：２段組み。１段＝22文字×40行

＜サンプル＞

1. XXXXX（第１レベルの表題：日本語・英語ともに12ポイント。左詰め。）

次の本文との間に１行（日本語：10.5ポイント, 英語：12ポイント相当）あける。

本文（日本語：明朝体10.5ポイント、英語：Times New Roman 12ポイント）

* 1. XXXXX

1.2 XXXXX （第２レベルの表題：日本語・英語ともに12ポイント。左詰め。次の行から本文を始める。）

本文（（日本語：明朝体10.5ポイント、英語：Times New Roman 12ポイント）

各見出しの前には１行（日本語：10.5 ポイント, 英語：12ポイント相当）あける。

**「注」「文献」**

「注」「文献」の表記は、日本語・英語ともに12ポイントとし、センタリングする。

その前後は１行あける。それぞれの本文は、日本語：明朝体10.5ポイント、英語：Times New Roman 12ポイントとする。